

2024年7月29日

## 産業別四半期見通し調査結果 (2024年7～9月期見通し)

### ■長野県産業天気図

#### ◇2024年4～6月期の現況

- 全12業種中、「薄日(順調)」が3業種、「曇り(普通)」が6業種、「小雨(低調)」が3業種となった。

#### ◇2024年7～9月期の見通し

- 見通しは、「薄日(順調)」が3業種、「曇り(普通)」が6業種、「小雨(低調)」が3業種となった。方向感では、「横ばい」が11業種、「やや下降」が1業種となっている。

天気図記号	2024年 1～3月期現況	2024年 4～6月期現況	2024年 7～9月期見通し
 晴れ(好調)	0 業種	0 業種	0 業種
 薄日(順調)	3 業種	3 業種	3 業種
 曇り(普通)	6 業種	6 業種	6 業種
 小雨(低調)	3 業種	3 業種	3 業種
 雨(不調)	0 業種	0 業種	0 業種

### ■7～9月期見通しのポイント

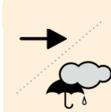
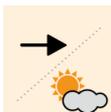
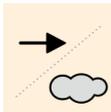
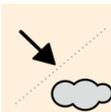
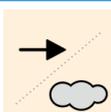
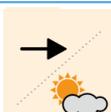
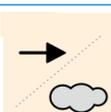
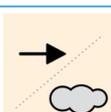
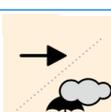
- 製造業、非製造業ともに天気図は変わらない見通し。

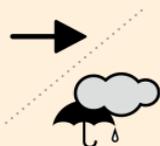
照会先  
一般財団法人 長野経済研究所  
調査部(担当: 桑井、伊東)  
TEL: 026-224-0501

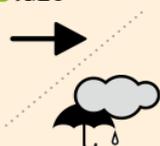


## <産業別天気図一覧(12業種)>

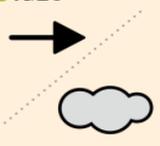
- 調査内容: 業界の「現況」、「見通し」は、県内の企業経営者が業界の景気をどうみているかについてアンケート調査とヒアリング調査をした結果を基に、当研究所が判断した。
- 調査期間: 2024年6月中旬～7月上旬
- 調査回答企業: 県内主要企業12業種の113社

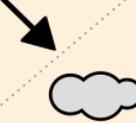
業種	前期 (24年1～3月期)	今期 (24年4～6月期)	来期 (24年7～9月期)
生産用機械			
電子部品・デバイス			
自動車部品			
飲料製造			
食料品製造			
機械器具卸			
大型小売			
自動車販売			
公共工事			
民間工事			
貨物			
観光			

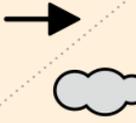
生産用機械	投資への慎重姿勢から自動車関連を中心に受注は低調な見込み
<p>● 現況</p> 	<p>生産用機械の受注は、バッテリー式電気自動車(BEV)の需要拡大ペースの鈍化などを背景に設備投資への慎重姿勢が続く低水準だった。IT関連では、PC・スマートフォン向けや産業向けなどの半導体需要の低迷が続く、受注は低調だった。今後も、自動車関連を中心に設備投資への慎重姿勢が続くとみられ、受注は低調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>工作機械</b>の受注は、国内の自動車関連では部品メーカーを中心に低調が続くほか、IT関連も低水準が続く見通し。海外は、中国向けは景気減速やBEV需要の鈍化などの影響から低調を見込む一方、北米向けは自動車関連を中心に底堅いとみられる。</li> <li>● <b>半導体製造装置</b>の受注は、産業用やIT関連の半導体需要の低迷が続く低水準の見通し。</li> </ul>

電子部品・デバイス	産業用やIT関連を中心に受注は低調とみられる
<p>● 現況</p> 	<p>電子部品の受注は総じて低調で、生産・出荷は低水準にとどまった。車載用の受注は、完成車メーカーの生産が順調に推移したことから堅調に推移したものの、半導体製造装置向けなどの産業用やPC・スマートフォンなどのIT関連向けは、中国景気の減速による需要の減少やPC・スマートフォン需要が弱く低調だった。産業用やIT関連の受注は、今後も低調に推移するとみられ、在庫水準は高止まる見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>IT関連</b>や産業用のほか、エアコンや冷蔵庫などの<b>家電用</b>は、中国景気の減速を背景とした需要の減少から、受注は低調に推移する見通し。</li> <li>● <b>車載用</b>は、完成車メーカーの生産が底堅く推移するとみられ、受注は堅調な見込み。</li> </ul>

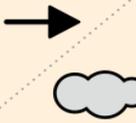
自動車部品	国内向けを中心に受注は順調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>完成車メーカーの生産が底堅く推移したことから自動車部品の受注は順調だった。今後は、一部完成車メーカーの生産・出荷停止が下押し要因となることが予想されるものの、影響は限定的とみられ、国内向けを中心に総じて受注は順調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>国内・北米向け</b>は、スポーツ用多目的車(SUV)を中心に新車需要が底堅く、受注は順調に推移する見通し。</li> <li>● <b>中国向け</b>は、現地メーカーとの競争激化を背景に日系完成車メーカーの新車販売が低迷しており、今後も受注は低調な見通し。また、<b>東南アジア向け</b>は、景気の減速や自動車ローンの金利高止まりなどを背景に需要に弱さがみられ、受注は低調となる見込み。</li> </ul>

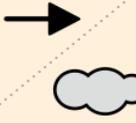
飲料製造	インバウンドなどの増加で、飲料需要は堅調に推移する見込み
<p>● 現況</p> 	<p>ビジネスや観光客の増加がみられたことから、外食や宿泊向けなどを中心に飲料需要は堅調に推移した。今後も、堅調な内需に加えインバウンドの増加が引き続き見込まれることから、需要は底堅く推移する見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>果汁・野菜飲料などの清涼飲料</b>は、りんごなど国産原料を用いた飲料の需要が底堅く、受注は堅調に推移する見込み。</li> <li>● <b>清酒やワインなどアルコール飲料</b>は、会合や宴会機会などの利用増加が見込まれ、飲食店向けの需要は堅調な見通し。ただ、包装資材などの価格が上昇する中、需要減少への懸念からさらなる価格転嫁は一部にとどまるとみられ、収益環境は厳しい見通し。</li> </ul>

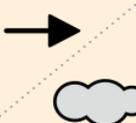
食料品製造	製造コストの増加により、収益環境は厳しさを増すとみられる
<p>● 現況</p> 	<p>家庭用需要は、健康面に配慮した製品を中心に底堅かった。また、業務用は、外出機会の増加により、外食向けが堅調だった。今後も需要は堅調な一方、原材料価格の上昇に伴うさらなるコスト増が見込まれる中、需要減少を懸念から、価格転嫁は一部にとどまるとみられ、収益環境は厳しくなる見込み。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 味噌やスープなどは、減塩など健康面に配慮した製品の需要が底堅い見込み。</li> <li>● 調味料、油揚げなどは、飲食店を中心に業務用の需要が底堅く推移する見込み。</li> <li>● 加工肉などは、エサ代高騰に伴う原材料価格上昇や運賃上昇を背景とした製造コストの増加がみられ、収益環境は厳しさを増す見込み。</li> </ul>

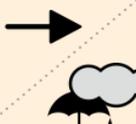
機械器具卸	機械需要は低調も、建設・電設資材需要は堅調を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>機械需要は、自動車関連が設備投資への慎重姿勢から弱含んだほか、IT関連では半導体需要の低迷が続き、総じて低調だった。一方、建設・電設資材の需要は民間工事中心に安定した工事量があり堅調だった。今後も機械需要は低調が続くとみられる一方、建設・電設資材の需要は堅調な見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 工作機械や制御機器などの機械需要は、自動車関連を中心に設備投資への慎重姿勢が続き低調な見込み。切削用工具類や金属板などの消耗品受注は、製造業の生産活動が堅調とみられ底堅く推移する見通し。</li> <li>● 建設・電設資材は、建築工事量が安定的に推移するとみられ、取扱量は堅調な見込み。</li> </ul>

大型小売	客数の増加や販売価格の引き上げにより順調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>客数増加や販売価格の引き上げから売り上げは増加した。根強い節約志向の中で衣料品は低調だが、食料品等は堅調だった。人手不足の影響から人件費は増加するも、増収でカバーし、収益への影響は限定的だった。今後も価格転嫁の進展から売り上げは増加する見通しだが、円安を背景とした食品値上げによる消費マインドの悪化が下振れ要因となる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 百貨店は、消費者の選別的な消費傾向が強まる中で、衣料品は伸び悩む一方、食料品や靴・バックなどの身の回り品、化粧品は売り上げ増加が見込まれ、底堅く推移する見込み。</li> <li>● スーパーは、販売価格の上昇が継続する中で、内食需要の高まりもあり、食料品や日用品などの必需品を中心に売り上げは増加する見込み。</li> </ul>

自動車販売	自動車販売は納車遅れの緩和などから底堅い動きに
<p>● 現況</p> 	<p>新車販売は、一部国内メーカーの生産・出荷停止による納車遅れの影響が緩和し持ち直したほか、中古車販売も底堅く推移した。一方、輸入車販売はスエズ運河を中心とする海上輸送の混乱から弱含んだ。今後、中古車は在庫不足から販売の伸びが鈍化するものの、新車・輸入車は納車遅れの緩和等から持ち直すため、自動車販売は総じて底堅い見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 新車販売は、納車遅れの影響緩和等から、緩やかに持ち直す見込み。</li> <li>● 中古車販売は、価格面や納車期間の短さなどから需要が高まっているものの、在庫不足の影響から販売の伸びは鈍化する見込み。</li> <li>● 輸入車販売は、納車遅れの影響緩和などから底堅く推移する見込み。</li> </ul>

公共工事	道路整備や施設改修工事を中心に工事量は堅調な見通し
<p>● 現況</p> 	<p>山間部の防災・減災工事や、道路のメンテナンス工事などにより、安定した工事量となった。今後も、三遠南信自動車道の整備等に関連した大型工事や、施設の改修工事などが引き続き見込まれ、堅調な工事量を維持する見通し。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>国</b>では、防災・減災を目的とするダムや砂防施設等の改修工事のほか、三遠南信自動車道に関連する大型工事などが見込まれ、堅調な工事量となる見通し。</li> <li>● <b>県</b>では、道路や橋梁のメンテナンス工事や、施設の機能向上を目的とする改修工事を中心に、安定した工事量が継続する見込み。</li> <li>● <b>市町村</b>では、公共施設の整備や長寿命化改修工事を中心に、底堅い工事量を見込む。</li> </ul>

民間工事	民間企業の建設投資を中心に底堅い工事量を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>民間企業の建設投資は、工場や倉庫の新增設工事を中心に、安定した工事量となった。新築住宅は、資材価格や人件費などの建築コスト高止まりによって注文住宅の需要減少が続き、総じて着工戸数は低調だった。今後もコストの高止まりは続く見通しだが、企業の建設投資を中心に底堅い工事量が見込まれる。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>民間企業の建設投資</b>は、工場や倉庫の新增設工事や、商業施設の新設に伴う工事などにより、引き続き堅調な工事量を見込む。</li> <li>● <b>住宅関連</b>は、建売住宅や分譲マンションの需要は底堅いものの、建築コストの高止まりによる注文住宅の受注減少が影響し、着工戸数は低調な見通し。</li> </ul>

貨物	中国向けの工業製品を中心に貨物量は今後も低調
<p>● 現況</p> 	<p>貨物量は総じて低調だった。工業製品は中国向けなど海外需要の鈍化が続き、ITや自動車関連の荷動きが低調だった。食品・雑貨類も商品値上げ等を背景に需要が伸び悩み、貨物量は振るわなかった。今後も工業製品は中国向けを中心に弱い動きが見込まれ、全体的に低調な貨物量が続く見通し。業界では運賃引き上げ交渉が進展しているが、燃料費や人件費の増加分を補う価格転嫁には至らず、厳しい収益環境が続く。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>工業製品</b>は、生産用機械・電子部品等のIT関連製品や自動車部品を中心に、中国など海外向けの貨物需要に弱さが続くともみられ、低調な荷動きとなる見通し。</li> <li>● <b>食品や雑貨類</b>は、猛暑予想に伴う飲料や季節商材の需要増から底堅い貨物量を見込む。</li> </ul>

観光	夏季行楽シーズンを迎え、順調な観光需要を見込む
<p>● 現況</p> 	<p>国内外からの旅行者が増え、山岳方面で観光バスの利用が順調だった。一方で、人手不足の影響からタクシーの稼働率は伸び悩んだ。宿泊施設は価格転嫁の進展や、円安を背景に増加した外国人利用者の取り込みによって収益を確保した。今後は、宿泊・旅客とも夏季行楽シーズンを迎え、堅調な観光需要を見込む。</p>
<p>● 見通し</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>旅客</b>は、高速バス・貸し切りバスを中心に順調な利用者数を見込む。タクシー業界では都市部において運転手不足が緩和傾向にあり、運行数を増やして需要を取り込む。</li> <li>● <b>宿泊施設</b>は、7～9月中の連休やお盆休みを中心に堅調な需要が見込まれ、運営体制の改善や業務効率化によって人手不足を補いながら対応していく。</li> </ul>